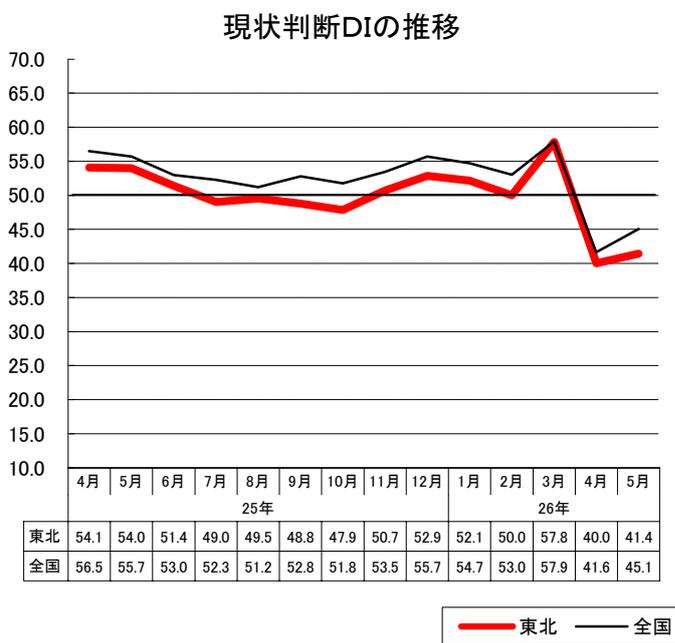


公益財団法人東北活性化研究センター
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 26年5月東北分
 (新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力(株)取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 26年5月東北分（新潟を含む東北7県）」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 現状判断（3か月前との比較、方向性）

現状判断DI「41.4」(+1.4)は、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回ったものの、2か月ぶりに前月を上回った。



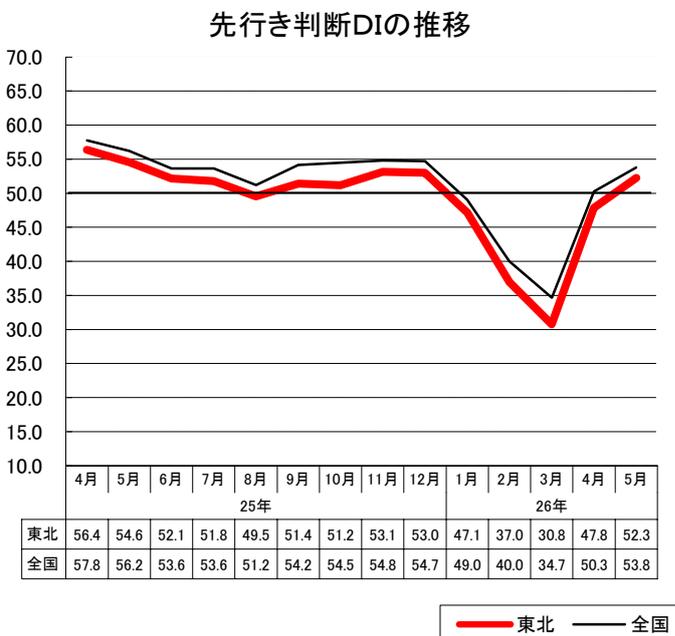
・家計動向…駆け込み需要の反動による売上の落ち込みはあるものの、コンビニ、旅行代理店等では、回復傾向がみられる。DIは「37.8」(+1.9)と基準値50を2か月連続で下回ったものの、2か月ぶりに前月を上回った。

・企業動向…消費税増税に伴い、引き続き、出版・印刷業をはじめ多くの業種で、受注・販売環境は良くなっていない。DIは「44.0」(▲2.4)と2か月連続で前月を下回り、基準値50を2か月連続で下回った。

・雇用動向…DIは「60.2」(+5.7)と5か月ぶりに前月を上回り、基準値50を17か月連続で上回った。

2. 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性）

先行き判断DI「52.3」(+4.5)は、2か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を5か月ぶりに上回った。



・家計動向…乗用車販売店等で、消費税増税の反動減からの穏やかな回復が見込まれている。DIは「51.7」(+3.6)と2か月連続で前月を上回り、基準値50を5か月ぶりに上回った。

・企業動向…飲食料品卸売業をはじめ多くの業種で、消費税増税に伴う受注減からの回復が期待されている。DIは「52.4」(+8.4)と2か月連続で前月を上回り、基準値50を4か月ぶりに上回った。

・雇用動向…DIは「55.7」(+2.3)と2か月連続で前月を上回り、基準値50を2か月連続で上回った。

<参 考>

■D Iの推移※

(1) 現状判断(方向性) D I

	25年										26年				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
東北現状	54.1	54.0	51.4	49.0	49.5	48.8	47.9	50.7	52.9	52.1	50.0	57.8	40.0	41.4	
家計動向関連	52.6	52.1	51.0	47.6	48.4	47.6	45.4	48.4	49.1	48.3	45.9	55.4	35.9	37.8	
企業動向関連	56.0	59.5	51.8	53.0	51.2	50.6	50.6	53.6	60.4	59.5	59.5	65.5	46.4	44.0	
雇用関連(参考)	60.2	55.7	53.4	51.1	53.4	53.4	59.1	60.2	63.6	63.6	59.1	59.1	54.5	60.2	

(2) 先行き判断D I

	25年										26年				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
東北先行き	56.4	54.6	52.1	51.8	49.5	51.4	51.2	53.1	53.0	47.1	37.0	30.8	47.8	52.3	
家計動向関連	54.7	53.5	50.3	49.7	47.2	50.0	51.0	51.6	52.1	45.0	34.8	29.3	48.1	51.7	
企業動向関連	60.7	57.1	57.7	58.5	54.2	54.8	50.0	57.7	54.3	51.2	43.5	31.5	44.0	52.4	
雇用関連(参考)	59.1	56.8	53.4	53.4	55.7	54.5	54.5	54.5	56.8	53.4	38.6	38.6	53.4	55.7	

※D I (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成26年5月25日～31日

回答者数 210/210名、回答率100.0%(全国1,868/2,050名、91.1%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL: 022-225-1426 FAX: 022-225-0082

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（酒類専門店）…ゴールデンウィークの影響もあり、観光物産館や道の駅などへの販売量が伸びている。また、飲食店も週の半ばは動きが少ないものの、週初めと週末は販売量の伸びが良い。

（一般レストラン）…物価上昇を背景に、どうせ食べるなら少しは良い所で食べたいという客の雰囲気があり、来客数が前年比で大きく増加している。

（旅行代理店）…消費税増税の影響も薄れ始め、夏旅に向けての購買行動が活発になっている。

（金融業）…不動産が動いており、それに伴う資金需要が出てきている。

（企画業）…ボーナス時期を控えて、宣伝機会が前年より多く予算的にも幾分増えている。宣伝担当者は「消費マインドが高まってきている」と言うが、むしろ企業側にマインドを高める意識が強くみられる。

（新聞社[求人広告]）…地元企業の採用数が今春、来春予定共に増えている。特にホテルや車のディーラーといったサービス業が顕著である。

○「変わらない」

（医薬品販売店）…消費税増税前の駆け込み需要の反動で来客数は例年より少なくなっているが、落ち込みの程度は前月より改善している。また、客単価は消費税増税以前の水準に戻っている。したがって、景気の基礎的状況は消費税増税後も横ばいで維持されている。

（コンビニ）…来客数は前年比で消費税増税前の水準に戻りつつある。

（住関連専門店）…消費税増税の影響は少しずつ少なくなっており、販売量は前年比 75%くらいになっている。しかし、3か月前との比較では変わらない。

（ショッピングセンター）…ゴールデンウィークとそれ以降では来客数が全く異なるが、いずれの時期も消費税増税前と比べて大きく減少しているとはいえない。また、売上についても想定の範囲内で推移しており、景気が良くなったとも悪くなったとも判断し難い。

（通信会社）…新規の加入者は若干増えているものの、生活費以外の出費を抑えているため、それ以上に解約者が多い。トータルの加入者数は純減となっている。

（食料品製造業）…販売量が消費税増税前と同程度に戻ってきている。

（公認会計士）…建設関係は売上は落ちているが利益は確保している。小売業は売上、利益共に減少傾向にある。全体的には黒字企業の割合が若干増加している。

（人材派遣会社）…大学生4年生の新卒採用を行っている企業において、新卒の採用予定数に満たない企業が中途採用を開始している。

（職業安定所）…新規求人数は食料品製造業や労働者派遣業で引き続き増加しており、有効求人倍率は 1.2 倍前後で推移している。

○「やや悪くなっている」

（百貨店）…3か月前は消費税増税前の駆け込み需要が徐々に表れてきたころであり、その時期に比べると販売量の動きは落ちている。特に、3月までに駆け込み需要で大きく売上を伸ばした宝飾品、ブランド品、家具などの売上の反動が大きい。ただし、衣料品などの落ち込みは予想よりも少ない。

（スーパー）…消費税増税後の消費の戻りが予想以上に鈍い。買いだめの影響がない生鮮食品の買上点数は前年並みだが、加工食品や雑貨の動きが鈍い。

（乗用車販売店）…消費税増税前の駆け込み需要の反動による買い控えが続いている。ただし、直近での受注量及び販売量は弱いながらも反動減幅が縮小しつつあるので、上向き始めているのではないかとみている。

(高級レストラン) …企業などの宴会はわずかではあるものの前年を上回っている。しかし、レストランなど一般客が利用する施設は来客数が前年を下回っている。

(観光型旅館) …来客数は前年比 10%以上の落ち込みとなっている。来客数が 0 人の日が発生するなど、宿泊客の動きが弱くなってきており、前月に引き続き景気は下降傾向にある。

(都市型ホテル) …宿泊部門はイベントのある週末のみ満室となり、平日は低価格で販売しても集客がままならない状況が続いている。また、一般宴会、レストランは当月に入ってから中間予想を下回っている。

(美容室) …消費税増税後、施術料金を値上げしてから来客数が一段と減少している。単価の高いパーマやカラーリング代を増税によって大きく値上げしたことも、かなりの影響を及ぼしている。

(農林水産業) …消費税増税分を農産物の価格に転嫁することができない。

(出版・印刷・同関連産業) …3 か月前は前年を上回っていた受注残が、今月は前年比 10%減となっている。

(輸送業) …荷主と各料金改定の交渉をしている。しかし、荷主も厳しい経営環境にあるため、実情を理解しているとの回答はあるが、改定には至っていない。

(通信業) …契約の更新には慎重さがうかがえ、前年よりも入札になるケースが増えている。

(広告業協会) …不動産、自動車販売などの出稿が回復しないことが影響して、5 月後半になっても 6 月以降の引き合いが少ない。

○「悪くなっている」

(衣料品専門店) …クールビズの影響で年々スーツの需要が減少している。さらに、消費税増税の影響でビジネスシャツやスラックスの動きも前年より悪い。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

(百貨店) …宝飾品、ブランド品などの高額商材の回復はまだ先になるが、衣料品、生活用品などは回復が見込まれる。化粧品なども買い置きが切れてくるところとみられ、予測よりも早く回復しつつある。ただし、お中元商戦において消費税増税が消費者の心理に与える影響があった場合、その面での落ち込みが懸念される。

(家電量販店) …白物家電を中心に単価は上がっている。今月、テレビのハイグレードモデルの新型が各社大量に店頭並んだので、今後はテレビの売上の向上に期待が持てる。

(乗用車販売店) …賃上げ、夏のボーナス効果及び新型車を中心とした増販効果により、消費税増税後の反動減も一段落して緩やかな回復に向かうとみている。

(住関連専門店) …景気の落ち込みは 5 月が底とみている。新築が遅れた分の耐久消費財の買い需要も、お盆までには出てくる。

(都市型ホテル) …婚礼などは若干来客数が増え、成約率も上がっている。これからは当地においてもオンシーズンとなり、一般宴会の件数も伸びていくとみている。

(旅行代理店) …消費税増税の影響も薄れ始め、夏旅に向けての購買行動が活発になっている。

(出版・印刷・同関連産業) …消費税増税の影響は思ったより小さく、売上はそれほど落ち込んでいない。消費税増税の影響はほぼ乗り切ったとみている。

(経営コンサルタント) …東北の中小企業においても昇給したところが少なくなく、消費マインドは高まるとの期待がある。

(飲食料品卸売業) …消費税増税による出荷の伸び悩みを心配していたが、順調な首都圏向けに加え、今月後半には地元向けの出荷も回復していることから、影響は無くなるとみられる。

(新聞社[求人広告]) …消費税増税前の駆け込み需要の影響も薄れてきて、消費が回復してくる。企業の業績が上向いてくれば、採用意欲もますます増してくる。

○「変わらない」

(スーパー) …業績の良い大手企業を中心にボーナスが増額がされることや、パートの時給が上昇気味であることから消費拡大が期待できる。ただ、商品価格が全体的に上昇しているため、可処分所得が増加しているかは気になる場所である。景気の回復にはもう少し時間が掛かりそうである。

(通信会社) …新たなサービスメニューの提供や顧客満足度を上げるための無料サポートサービスを準備し、解約者の防止に努めている。このようなお客様サービスをして、ようやく現状維持ができる。

(住宅販売会社) …戸建ての受注は減少しているものの、一般大型物件の受注予定があるため、受注予定量の心配はしていない。

(電気機械器具製造業) …自動車関連は堅調に動いているが、その他の製造業関連は波があるので、全体的には状況は変わらない。

(建設業) …大型復興案件の発注が進むとみられる。一方で、資機材調達や作業員確保の状況が抜本的に改善されるビジョンがないため、先がみえない。

(職業安定所) …依然として介護、建設など人手不足の業種からは活発な求人がある。また、消費税増税の影響を受けるとみられた卸小売、サービスなど他の業種からも、業績の悪化による求人の手控えの感触は無いので、状況はこのまま推移していくとみられる。

○「やや悪くなる」

(コンビニ) …エルニーニョ現象によって冷夏になるとの予報があり、冷し麺や飲料、アイスなどを中心に販売量が低下する恐れがある。

(パソコン専門店) …各メーカーから材料価格値上の案内が頻繁に来ている。顧客との金額調整も大変であり、今までの感覚では受注は見込めなくなる恐れもある。客が材料価格の高騰に慣れるまで、しばし売買、受注の動きは停滞する。

(農林水産業) …農業資材価格や燃料価格がじりじりと値上がりし、収支を圧迫している。

(一般機械器具製造業) …自動車部品の輸出環境は、北米向けは現状と大きく変わることはない。しかし、新興国向けについては新興国経済の景気に陰りが出てきており、多少下向きになる。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上